後藤謙次
Goto Kenji

ドキュメント

平成政治史 3

幻滅の政権交代

岩波書店

ドキュメント

平成政治史

3

幻滅の政権交代

Goto Kenji

後藤謙次

岩波書店

後藤謙次

1949年生まれ．1973年早稲田大学法学部卒業．同年共同通信社入社．自民党クラブキャップ，首相官邸クラブキャップ，政治部長，論説副委員長，編集局長を歴任．現在はフリーの政治ジャーナリストとして活躍．共同通信客員論説委員．著書に，『日本の政治はどう動いているのか』(共同通信社)，『竹下政権・五七六日』(行研出版局)，『小沢一郎 50の謎を解く』(文春新書)，『ドキュメント 平成政治史 1 ——崩壊する55年体制』『ドキュメント 平成政治史 2 ——小泉劇場の時代』(岩波書店)などがある．

ドキュメント 平成政治史 3
幻滅の政権交代　(全3巻)

2014年12月25日　第1刷発行

著　者　後藤謙次（ごとうけんじ）

発行者　岡本　厚

発行所　株式会社 岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
電話案内 03-5210-4000
http://www.iwanami.co.jp/

印刷・三陽社　カバー・半七印刷　製本・牧製本

© Kenji Goto 2014
ISBN 978-4-00-028169-0　Printed in Japan

R〈日本複製権センター委託出版物〉 本書を無断で複写複製(コピー)することは，著作権法上の例外を除き，禁じられています．本書をコピーされる場合は，事前に日本複製権センター(JRRC)の許諾を受けてください．
JRRC　Tel 03-3401-2382　http://www.jrrc.or.jp/　E-mail jrrc_info@jrrc.or.jp

ドキュメント

平成政治史 3

幻滅の政権交代

装丁＝間村俊一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ドキュメント 平成政治史（全三巻）　後藤謙次

1　崩壊する55年体制
四六判四三四頁　本体二三〇〇円

2　小泉劇場の時代
―小渕内閣・森内閣・小泉内閣まで
四六判四四六頁　本体二三〇〇円

3　幻滅の政権交代
―第一次安倍内閣から民主党政権を経て、第二次安倍内閣まで
四六判六〇〇頁　本体二八〇〇円

戦後政治史 第三版　石川真澄・山口二郎　岩波新書　本体九〇〇円

民主党政権とは何だったのか
―キーパーソンたちの証言
山口二郎・中北浩爾 編　四六判三四八頁　本体二四〇〇円

政権交代を超えて
―政治改革の20年
御厨貴・牧原出・佐藤信 編　B6判二二二頁　本体一七〇〇円

外交をひらく
核軍縮・密約問題の現場で
岡田克也　四六判二八八頁　本体一九〇〇円

―岩波書店刊―

定価は表示価格に消費税が加算されます
2014年12月現在

平成政治史3　目　次

第一四章　年金と失言に沈んだお友だち政権　第一次安倍晋三内閣……1
1　小泉路線の是非　2
2　お友だち内閣への不信　13
3　失言ドミノ　34
4　満身創痍の退任劇　60
第一五章　「大連立」に賭けた救援政権　福田康夫内閣……81
1　福田後継　82
2　「決められない政治」　108
3　予定退陣　129
第一六章　勝機逃した追い込まれ政権　麻生太郎内閣……157
1　リーマン・ショック　158
2　消えた解散権　177
3　無為無策の政権喪失　199
第一七章　普天間で自壊した政権交代政権　鳩山由紀夫内閣……225
1　二重構造政権の宿命　226
2　「政治とカネ」に躓いたツートップ　252

3　鳩山、小沢のダブル辞任　272
第一八章　東日本大震災に遭遇した孤高政権　菅直人内閣……289
1　徹底した脱小沢　290
2　場当たり外交の代償　330
3　戦略なき脱小沢路線　339
4　弱体内閣を襲った大地震　371
第一九章　消費税に燃え尽きた最後の民主党政権　野田佳彦内閣……421
1　野田の自民党化　422
2　消費税への道程　452
3　「近いうちに解散」　487
4　安倍復活　506
5　第二次安倍政権誕生　547
あとがき　575
主要参考文献　579
関連年表

写真提供＝共同通信社（三五八頁と三九〇頁は除く）

第一四章
年金と失言に沈んだお友だち政権
第一次安倍晋三内閣（二〇〇六年九月―二〇〇七年九月）

安倍晋三

1　小泉路線の是非

「麻垣康三」

五年五カ月の小泉純一郎長期政権の終わりを告げる日がやってきた。舞台は大きく回って次の主役が登場した。

「できるだけ多くの支持を頂ければ力強い内閣を作ることができる」――。二〇〇六年九月二〇日朝。官房長官安倍晋三はこの日午後に予定された自民党総裁選に向けて記者団に心境を語った。安倍は勝利を確信し、自信にあふれていた。

党所属の国会議員による投票は午後二時から党本部八階のホールで始まった。立候補したのは安倍に加えて外相麻生太郎、財務相谷垣禎一の三人。国会議員票四〇三票に約一〇六万人の党員・党友に割り当てられた三〇〇票の計七〇三票で争われた。結果は予想通り安倍の大勝に終わった。

安倍晋三　四六四票
麻生太郎　一三六票
谷垣禎一　一〇二票

議員票も安倍が二六七票、麻生六九票、谷垣六六票。そして奇妙な無効票が一票だけあった。その

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

投票用紙には「安倍晋太郎」と書かれていた。二度の総裁選に挑戦した安倍の父晋太郎は病魔に襲われ、トップリーダーの座を目前にして無念のうちに世を去った。安倍晋三の勝利が動かなかったため、晋太郎を慕った議員が供養の思いもあって投票したのだろう。選挙終了後にこの無効票の存在を知らされた晋三は思わず「父の仏前に供えたい」と漏らしたという。

議員票、党員票ともに安倍が他の二人を足下にも寄せ付けない強さを発揮した。永田町で使い古された表現を使えば、「幕が上がった時には芝居が終わっていた」。これがこの時の総裁選だった。かつては政権の盛衰に大きな影響力を行使した田中角栄、竹下登の系譜にあった平成政治研究会(平成研＝津島派)はついに候補者を擁立できずに終わった。平成研は小泉政権を経て参院議員会長の青木幹雄が実権を握り、青木は元首相森喜朗を通じて森派との連携に比重を置いていた。森・青木コンビはその後の自民党政権の成り立ちに深く関わり、二人は政界を引退した後も自民党の背後で少なからぬ影響力を発揮する。

この総裁選でも森・青木が安倍で派内をまとめた。それに加えて安倍の強さは首相小泉純一郎が繰り返し「安倍後継」をアナウンスしてきたことが大きい。八三人の勢力を有した郵政選挙で初当選した「小泉チルドレン」は大半が安倍でまとまった。さらに安倍自身の国民的な人気が党内の安倍待望論を醸成した。

小泉は二〇〇五年九月一一日の郵政選挙で大勝すると、選挙翌日の記者会見で早々に首相退陣を表明している。いかにも小泉らしかった。かつての中曽根康弘のように選挙大勝に対するボーナスのように総裁任期を延長する道もあったが、小泉はきっぱりと否定した。

「残り一年間の総裁任期を精一杯努めたい。私の任期は来年(〇六年)九月に終わる。政権政党の規定は重い。選挙前から来年九月の後は引き続き総裁を務めるつもりがないと申し上げており、その考えに変わりはない」

その上で郵政民営化法の成立後に行った第三次小泉改造内閣で安倍を自民党幹事長代理からいきなり官房長官に大抜擢した。事実上の「首相見習い」を命じたのだった。小泉はそれ以前から「麻垣康三」と呼ばれた四人を有力な後継候補として実名を挙げていた。麻生、谷垣、安倍の三人と前官房長官の福田康夫だった。小泉は最後の内閣改造で、麻生は外相、谷垣も財務相として留任させ、安倍と競い合わせる形を整える一方、福田については党の役職を含めて一切処遇をしなかった。その点からも「安倍後継」への小泉の強い思いが伝わった。小泉と福田は政治家としての肌合いが違ったことに加え、安倍と福田は同じ森派に属し、「両雄対決」になれば、同派分裂の引き金になる可能性があったからだ。そして小泉が何よりもこだわったのが小泉路線の継続だった。自らはあっさりと身を引くことを明言する一方で政策の継承・継続に強いこだわりを持っていた。その象徴的なテーマの一つが消費税率引き上げを含む税制改革をめぐる議論だった。

小泉は就任以来、「私の任期中に消費税率を上げることはしない」と繰り返した。これに対し真っ先に異を唱えたのが谷垣禎一。財務相留任が決まると、最初の記者会見で消費増税に言及した。

「二〇〇七年の通常国会に案を出せるようにしなければならない。だれが政治の責任者になろうと避けて通れない」

谷垣発言に経済財政担当相に就任した与謝野馨が同調した。ところが二人の発言に集中砲火が浴び

せられる。まず総務相に就任した竹中平蔵が谷垣らを「形を変えた抵抗勢力」と言えば、自民党政調会長中川秀直が谷垣批判に追随。そして小泉自身がダメを押した。一一月一八日夜、訪問先の韓国の釜山で驚くほど激しい言葉で実名を挙げて谷垣と与謝野を批判した。

「いずれ谷垣さんも与謝野さんも私の意図が分かれば、中川政調会長に協力していく。私の意図が分からないから調子外れなことをたまに言うだけだ」

小泉の意図は明確だった。「小泉―竹中―中川」と言えば郵政民営化法を成立させた中軸トリオ。小泉改革に反対する谷垣、与謝野は「ポスト小泉の資格なし」を宣言したのも同然だった。

ただし、この対立には単なるポスト小泉をめぐる権力闘争だけでなく、自民党内の経済・財政をめぐる根深い路線闘争が横たわっていた。中川らは増税によらず金融緩和や構造改革による税の自然増収で、基礎的財政収支（プライマリーバランス）の黒字化が達成できるとし、「上げ潮派」と呼ばれた。

これに対して与謝野は歳出と歳入の一体改革を提唱した。与謝野が取りまとめた二〇〇六年七月の「骨太の方針二〇〇六」は歳出削減だけでなく消費税増税の必要性を盛り込んだ。これが小泉内閣で最後の「骨太の方針」だった。与謝野はその後も消費増税と社会保障改革を一体的に処理する財政構造改革路線の中心的な役割を担った。その推進に与謝野は政治家生命のすべてを投げ打った。後に与謝野は自民党を離党、最後は請われて民主党の第二次菅直人内閣の社会保障と税の一体改革担当相に就任する。民主党の経済政策を木端微塵（こっぱみじん）に論破した与謝野の民主党政権入りには「ポスト欲しさ」などの誹謗中傷が飛び交ったが、与謝野の財政再建に向けた信念が揺らぐことはなかった。

菅からバトンを受け取った首相野田佳彦が二〇一二年八月、二段階（二〇一四年四月＝五％から八％、

一五年一〇月＝八％から一〇％）による消費増税について野党の自民、公明両党との三党合意に漕ぎ着けた。時の野党自民党総裁が谷垣だった。小泉内閣末期の路線論争から実に六年の時間が経過した。その論争はポスト小泉をめぐる後継者争いの中でより鮮明になっていく。

「参院選の顔」

もちろん、事実上の「小泉指名」とは言っても一直線に安倍後継の流れができたわけではなかった。自民党が次期首相に求めた最優先の条件は二〇〇七年夏の参院選に勝つことだった。安倍が官房長官に就任した時点の民主党代表は前原誠司。小泉は前原の「若さ」を強く意識した。そのライバルに「安倍首相」を想定したと言ってもよかった。ところが前原は「偽メール問題」で辞任し、二〇〇六年四月には剛腕と呼ばれた小沢一郎が代表に就任した。小沢は就任早々の衆院千葉七区の補欠選挙で二六歳の太田和美を当選させ、「選挙の小沢」を強くアピールした。

小沢の登場で自民党内は再び「麻垣康三」の中でだれが総理総裁にふさわしいかの議論に舞い戻った。従来は①小泉路線の継続か修正か②東アジア外交の在り方――などが総裁選の争点、対立軸とされたが、新たに小沢民主に対抗できるのはだれかという要素が加わった。

四三歳の前原の躓（つまず）きが自民党内には「若さより経験」という議論を呼び起した。参院の実力者青木幹雄もその一人だった。

「安倍さんはまだ若い。もう一度雑巾掛けをした方がいいわね」

その青木には意中の人がいた。「沈黙の総裁候補」と言われた福田康夫だ。「麻垣康三」の中でただ

一人無役の福田は小泉の靖国参拝で緊張関係の続く近隣外交の立て直しの切り札的な存在だった。福田を推していたのは青木に加え、前副総裁の山崎拓、経済産業相二階俊博、元幹事長の古賀誠ら。小泉と安倍に影響力を持った森喜朗も「福田―安倍」の順でバトンタッチさせることで青木とも意見が一致じていた。

こうした福田擁立の動きに対して敏感に反応したのが、小泉路線の継続を大義名分に安倍への継承を狙った中川秀直だった。中川は民主党の代表が前原から小沢に代わる前から福田の存在を強く意識していた。三月一四日、訪問先のオーストラリアのホバートで行った同行記者団との懇談で自らの考えを明確にした。

「年齢は対立軸ではない。改革路線をしっかり引き継いでいくかどうか民意が見極めていくことになる。国内が『親中』『反中』で割れるのは日本の国益にならない」

ところが五月に入ると、現実に福田の存在感が膨らみ始めた。共同通信が実施した世論調査によると、「次の総裁候補」の第一位は安倍(四〇%)で変わらなかったものの福田が三一%に支持率を急上昇させた。麻生、谷垣は依然として低迷し、焦点は同じ森派に所属する安倍と福田の去就に集まった。福田の支持率アップの背景には靖国神社参拝問題が密接に絡み合った。福田なら悪化した日中関係の改善に向かうとの期待感があったからだ。大型連休中に米国を訪問した福田は、副大統領チェイニーら米政府要人と会談、外交でじわじわと存在感を発揮したことも福田待望論に火を点けた。しかし、それ以降も福田は沈黙を守り、七月下旬になって不出馬を表明した。

「出馬するとは言ったことがない。年も年だ。年齢が一番大きい」

当時、福田は七〇歳。確かに年齢の問題があったにせよ、不出馬の最大の理由は「同門対決」による混乱回避とみられている。

菅義偉の登場

これに対して安倍は総理総裁の座に強い意欲を燃やし、かつ準備も怠りなかった。父晋太郎の過酷な政治家人生を目の当たりにした安倍は、総理総裁になることがどれほど大変なのかを身に染みて感じていたに違いない。小泉の支援や国民的人気だけでなく自らの足場固めに着手した。

それが「再チャレンジ支援議員連盟」の設立だった。官房長官に就任した安倍は、小泉改革の負の側面である「格差批判」に対抗するため再チャレンジ推進会議をこの年の三月に政府に発足させた。安倍は「勝ち組、負け組を固定化させない」をキャッチフレーズに議長に就任した。推進議連はこれの議員版と言ってよかった。しかもこの議連の特徴は派閥横断型の組織で安倍は森派に基盤を置きつつもさらに広い支持グループの形成を狙った。従来の自民党総裁選とは全く違うアプローチと言え、派閥の流動化をさらに進めることになった。六月二日の初会合には衆院の当選六回以下、参院当選二回以下の議員のうち、九四人が参加した。

会長には高村派の山本有二が就任。さらに事務局長に安倍が直々に要請したのが菅義偉（すがよしひで）だった。安倍と菅の出会いは菅が二回生だった二〇〇四年に始まった。菅によると、自民党総務会で対北朝鮮制裁をめぐって万景峰（マンギョンボン）号の入港を阻止するための港湾法改正を提唱した菅に安倍が強い関心を持ち「一度お会いしたい」と申し出があったのがきっかけだったという。菅は九八年の自民党総裁選で一年生

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com